

英語の力と鍛錬について:私の場合

(2003年まで勤務のP5経験者)

応募に関心を持つ人の多く、あるいは全ての人が英語への懸念を持つだろう。個人的に応募の相談を受けた、あるいは逆に応募を勧めた多くの人が「技術的にはともかく(自信はあるが)英語がねえ」と言う。本来の技術でない、いわば道具でしかない言葉の問題で「国際貢献」という意義ある機会、個人としても新しい世界を経験する機会を逸しているかと思うともったいないと強く感ずる。実際に勤務してその感を強めた。ここでは、この英語力の向上・維持について個人的経験を書いてみたい。

私自身英語は嫌いではなかったが、勉強と言えば会社が開いていた課外授業で自己学習をしていた程度である。幸い、30歳で日英共同プロジェクトのチーム員としてイギリスに1年半滞在する機会があった。人生最初の「海外」だった。英検や翻訳士の民間資格、観光ガイドの国家資格を取れたのもその帰国後だった。そして、折角本場で上達した英語を朽ちさせたくないとたまたま参加したのがトーストマスターズクラブである。

これはアメリカで始まった[パブリックスピーキング自己啓発組織](#)の会員クラブである。人前での話し方、議論の仕方、会議の進め方などを練習する同志の集まりである。教則本に則り、目線の使い方、身振り、抑揚のリズムなどに主眼を置いたスピーチを予め準備して仲間の前で話す。聞き手がそれにコメントする。これを、順を追って段階的に進めていくⁱ。IAEAの面接でも、着任後の仕事でもこの訓練が非常に助けてくれた。担当者として自ら会議を進行する場合に特に役立った。多人数での議論に乗り遅れないように自分の意見を述べ、活動報告を要領よく説明(発表)するにもクラブでの練習が非常に役立った。

こんな経験を与えてくれたクラブの仲間に今も感謝している。IAEA着任後も国連内同好会にこのクラブがあることを知って加入し、自分の力の改善・維持に努めた。日本全国に[150近くのクラブ](#)がある。関心ある人は身近なクラブに顔を出して見ることを勧めたい。きっと役に立つ。月に2度、各2時間程度で隔週開催のクラブが多いようだ。2、3度はゲストとして実態を直に見て、参加するかどうかを決めれば良い。どのクラブもゲスト参加を歓迎してくれるはずだ。営利組織ではないから会費も安い。何より「勉強したい」と思う人の集まりだからお互いの意欲を助け合える。世界的な組織だから、旅行先や転勤先でも大体は姉妹クラブがあって「転籍」処理も簡単だから友人も得やすい。



語学と言うのはメンテナンスが重要である。「体力」以上に日頃の継続が重要である。私は「斜面のトラバース」にしばしば例える。素足でもスキーを履いてでも、「上へ登ろう」と意識しないと次第に直滑降的に斜面を降りてしまう。「上へ」努力して漸く水平にトラバースできるのだ、と自分自身にも言い聞かせている。もちろん、鍛錬の場はこのクラブに限らない。街には「学校」が溢れている。要は熱意と継続性だと思う。自分でやり易い場を探し継続する事だ。「王道はない」が「道は一本ではない」のも真実だと実感する。

「(日本人にしては)話がうまいな」と会議終了後に褒められてクラブでの経験を口にすると「そうか、やっぱり、あれは良いクラブだ、俺も以前は云々」と会話が弾んだ経験も一度ならずある。

-
- i 詳細は省くが練習メニューの一端を紹介する。「話し方」では基礎と上級の2段階があって、
基礎過程では目線の使い方、起承転結、ジェスチャー、言葉の抑揚、正しい言葉使い、説得技術などの練習。
上級過程では、聴衆を楽しませる話し方、技術論文の発表、情報の説明方法、ストーリーテリング、マスコミ対応など実際の場面にそれらの要素技術を応用した形で模擬訓練を重ねる。
これら以外に、設定したテーマについての議論、それを取りきる議長役、賛否を論ずるディベートなども折りこまれる。実際に国連で勤務して、これらの練習が「議論に乗り遅れず参加し、自分の考えを分かり易く伝える」のに非常に役立った。奇異に響くかもしれないが、これらの練習が私の日本語能力も高めてくれたようだ。